

腸管出血性大腸菌感染症 (消毒方法と日常生活での注意点)



【腸管出血性大腸菌とは】

人の腸にいる普通の大腸菌と同じ仲間ですが、下痢や腹痛、尿毒症などを起こす毒素（ベロ毒素）を出す菌をいいます。代表的なO157の他にもいくつかの種類があります。

症状のある人の一部には症状が出てから2週間以内に溶血性尿毒症症候群（HUS）という腎機能障害・血小板の減少・貧血などを特徴とする重篤な病気を起こすことがあるので注意が必要です。一方、感染していても無症状の人もあります。

【感染経路】

菌に汚染された飲食物を食べたり、患者の便で汚染されたものを口に入れることによって感染します。

【潜伏期間】

平均して4～8日ですが、もっと短い場合もあります。

【就業制限と消毒命令】

菌を保有していることが確認されると、保健所より飲食に関係する職業に従事することを制限されたり、消毒に関する命令が出されることがあります。

1、消毒薬と消毒方法

(1) 主な消毒薬

- A：消毒用エタノール
- B：第4級アンモニウム塩（商品名：オスバン・ハイアミン）
- C：次亜塩素酸ナトリウム（商品名：ピューラックス・ハイター・ミルトン）

	トイレ内の清掃	衣類付けおき	台所の清掃	指手の消毒
A	○	×	○	○
B	○	○	○	○
C	○	○	○	×

消毒薬は薬局で購入できます。濃度や使用方法は添付書類を参考にしてください。

(2) 消毒方法

①トイレ

手の触れる機会の多い便座・水洗レバー・蛇口・ドアノブ・ペーパーホルダーなどを消毒薬に浸して絞った布でよくふき取ります。

手洗い後のタオルの共用はやめましょう。

②便に汚染された衣類

下着・寝具・タオル・ハンカチなどは消毒薬に浸してから洗濯します。

患者と家族のものは別に洗濯し、天日で十分乾燥させます。

煮沸消毒（80度10分間）でも消毒は可能です。

③おむつ交換

患者さんのおむつ交換をする場合は、使い捨て手袋を使用し、おむつはポリ袋に入れてしっ



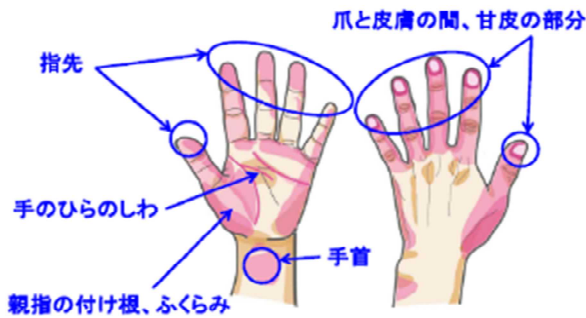
かり口を縛って捨てます。

④台 所

使った食器は洗剤と流水でよく洗浄します。また、流しや蛇口、食器戸棚・冷蔵庫の扉は消毒薬で拭きましょう。包丁やまな板は洗浄後に熱湯をかけると消毒効果があがります。

2、手洗いの方法

洗い残しの多い部分



トイレの後、食事の前などは特にしっかり石鹸と流水で手洗いをしましょう。



3、食事について

生肉・生魚を切った包丁やまな板で、野菜や果物などの食品を切らないようにします。バーベキュー（焼肉等）などでは生肉などを挟む箸と焼けた肉を挟む箸は別にしましょう。調理した食品は速やかに食べましょう。菌は室温でも15～20分で2倍に増えてしまいます。患者さんは、積極的に乳酸菌製剤や発酵食品（ヨーグルト・納豆など）を摂取し、腸内環境を良くすることで、早期に菌を体外に排出することができます。

4、入浴について

患者さんは家族の一番最後に入浴し、肛門部をよく洗いシャワー等で洗い流しましょう。毎日、最後に風呂水は流して、風呂用洗剤で十分に洗浄します。家族とバスタオルの共用は止めましょう。

5、便の検査を受けるときに

患者さんの家族や保健所が必要と判断した方は感染の確認のため、健康状態の確認と検便が必要になる場合があります。その場合には保健所から「健康勧告書」が出されます。プライバシー保護には十分配慮しますのでご協力をお願いします。

【便の取り方と保存方法】

便は説明書をよく読んで採取してください。採取した便は涼しい場所で保管しましょう。保健所から指定された日に出していただき、結果がわかり次第にこちらから連絡をいたします。

連絡先：夷隅健康福祉センター 健康生活支援課 電話 0470-73-0145